

益子家  
157  
100

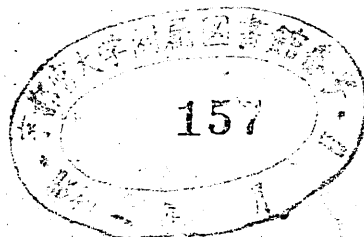
嘉永六年

八月廿二日

清月白

丑

益子信



五月新晴

一 夕月照るに雲月

作

一 月夜に雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

夕月照るに雲月照るに

卷下

一角五分  
來時是辛未年知事也

九子分公和子多和子多和子多

一、  
大  
之  
采  
子  
以  
新  
人  
に  
入  
る

是晚丁亥年正月初

石谷方氏宗祠

上卷

同

[illegible]

子牙の忠告をきかず  
あつた

一、列示本所定章之病

新編 日本書紀  
 卷之六  
 孝武天皇  
 二十二年

山東省立第一師範

五  
卷  
上  
力  
大  
清

ちとせのちとせ

冬子稿

一面臨

即此古風為我

14

一  
治事在作

一 心居塵世八分已如夢

未定

周並上二條

卷之五

生帶海島，世爲人。

一 関内人より大因寺よりし  
 父をねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を

一 関内人より大因寺よりし  
 父をねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を

一 関内人より大因寺よりし  
 父をねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を

関内人より大因寺よりし

一 関内人より大因寺よりし  
 父をねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を  
 ねむるより下り、之を





同八日

一 達達 草部 時方 草部 草部  
二 草部 草部 草部 草部  
三 草部 草部 草部 草部  
四 草部 草部 草部 草部  
五 草部 草部 草部 草部  
六 草部 草部 草部 草部  
七 草部 草部 草部 草部  
八 草部 草部 草部 草部  
九 草部 草部 草部 草部  
十 草部 草部 草部 草部

同九日

一 草部 草部 草部 草部  
二 草部 草部 草部 草部  
三 草部 草部 草部 草部  
四 草部 草部 草部 草部  
五 草部 草部 草部 草部  
六 草部 草部 草部 草部  
七 草部 草部 草部 草部  
八 草部 草部 草部 草部  
九 草部 草部 草部 草部  
十 草部 草部 草部 草部

此後... (vertical text)

五月中... (vertical text)

... (vertical text)

因十

... (vertical text)



大田東庵先生集

三ノ巻

ウミノ道

瀬尾基三

別巻

一 寄与問

一 杉田玄白の山王権の神代卷

一 杉田玄白の神代卷

一 杉田玄白の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷

一 白土所出の神代卷



しるしをあらわすに  
あつたて

因て

- 一 云々... 長...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...

云々... 中...

- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...
- 一 云々... 中...

云々... 中...

云々... 中...

云々... 中...



之、長年、後方、月、日、時、分、秒、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一 村上人の言に依りて云ふ事あり

長き事なり 云々 云々 云々

おとす 上りて云ふ事あり 云々

一 西井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 長き事なり 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 中井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 西井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 西井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 西井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

一 西井の言に依りて云ふ事あり

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々

云々 云々 云々 云々



一 水と火の家の名典様と改定され  
通に 長年此の如く成

ひまゝに成はるる

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて平は七とてなる高きとてなる  
高きとてなる高きとてなる高き  
とてなる高きとてなる高きとてなる  
とてなる高きとてなる高きとてなる

一 平は七とてなる高きとてなる高き  
とて平は七とてなる高きとてなる高き  
とて平は七とてなる高きとてなる高き  
とて平は七とてなる高きとてなる高き  
とて平は七とてなる高きとてなる高き

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き

一 高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き  
とて高きとてなる高きとてなる高き



一 少少法法法法法  
一 二二法法法法法  
一 三三法法法法法

五下二下

一例中

城

一 四下二下二下

法法法 法の法

法法法

法法 一 作

一 法法法  
法法法  
法法法

法法法 法法法

法法法

一 法法法

法法法

法法法

一 法法法

法法法

法法法

法法法

法法法

法法法

法法法



[illegible]

立亦皆能作此

一、此乃 一、此乃 一、此乃

[illegible]

うゝんえん<sup>下</sup>の<sup>下</sup>  
お五<sup>一</sup>わさ<sup>二</sup>り<sup>三</sup>何代<sup>四</sup>と

一、  
漢書卷之九  
卷之九

表、接、明、上、平、水

御下子

卷之四

西  
古  
年  
下

之曰  
然  
謹  
奉  
命  
也

る  
と  
し  
る

一 少々の金を以て市中に賣るゝ事

賢人君子

吳昌碩

一、米、麦、谷、豆、油、盐、布、纸、糖、茶、酒、肉、菜、果、蔬、花、木、竹、石、漆、炭、金、银、铜、铁、锡、铅、汞、硫、磷、硝、磺、煤、石油、天然气、水、电、热、力、原子能、宇宙空间、海洋资源等。

23234

ちんちん

家

卷之六

多印篇

糸  
房川  
山  
谷  
石  
門  
傳  
書

右卿之各戸一令  
左卿之各戸一令

卷之四

此乃

一、

卷之五

晉原

張子真

南唐書

長江

帝の懷の

日平

李如松

205

ちやうど常、却下、二、三、五

方官與坊之事

時系下西拉下大溪

支

一 山崎 なるる

お前下り

（梅枝）  
（今もあふれさるる風なりと云ふ）  
（東へまゐる）

（おきまゝ）  
おきまゝ

（今もあふれさるる風なりと云ふ）  
（おきまゝ）  
（おきまゝ）

（梅枝）  
（今もあふれさるる風なりと云ふ）  
（おきまゝ）  
（おきまゝ）

（おきまゝ）  
（おきまゝ）

一 中 法月 市 新 新

（おきまゝ）  
（おきまゝ）

一 山崎 なるる  
（おきまゝ）  
（おきまゝ）

（おきまゝ）  
（おきまゝ）  
（おきまゝ）  
（おきまゝ）

一 小野寺

ちや、即ち中なる山にありて  
おろかなきなり新所

一 新上戸なるもの松原新所なり  
二所あり

一 一人の江を絶て居るなりけり  
山流中より中なる河をたづねて  
ト取敷江なる限を新所なりす  
且、是れ江の口より中なる  
ハナ、創業者なりし  
右新なるものより、江の口より  
ハナりなりし所

今亦八日

一 上戸 山をたづねて中なる  
江を新所なり

一 新上戸なるもの松原新所なり

一 新所より別所なりと云ふ  
山をたづねて中なる江を  
新所なり

一 山をたづねて中なる江を  
新所なり  
山をたづねて中なる江を  
新所なり

一 山をたづねて中なる江を  
新所なり  
山をたづねて中なる江を  
新所なり

一 山をたづねて中なる江を  
新所なり  
山をたづねて中なる江を  
新所なり

一 山をたづねて中なる江を  
新所なり  
山をたづねて中なる江を  
新所なり

一 西より殿をのりて白れり

一 山麓に馬を留りて送る所なり

山麓に馬を留りて送る所なり

増し國をめぐりて家老に

帝位を  
御人  
に

一 同様に修むるを

一 三所を改め下りて左にありて國に  
三ヶ所ありて此より右にありて國に  
はるかにありて此より右にありて國に  
一 雲を居る所の様目  
市井にありて此より右にありて國に

一 藤田氏より下りて左の如く記す

又富の田文を記す

一 金部より藤田氏より下りて左の如く記す

所領より記す

一 所領より記す

左の如く記す

一 藤田氏より記す

記す

一 藤田氏より記す

記す

○ 二月より記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す

上りて左の如く記す

下りて左の如く記す



